

施策分析シート（平成23年度）

No1

施策名	総合的な交通体系の整備	施策No	12-03	部課名	都市整備部都市計画課		
関連部課名							
行政評価	分野	安全安心都市[]					
事業体系	政策	利便性の高い都市基盤の整備[12]					
目的	公共交通機関の充実を図るとともに高齢者、障がい者等の移動や施設利用の利便性・安全性の向上を推進する。						
指 標	施策の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (28年度)	
	新バリアフリー基本構想策定の進捗率	-	60%	70%	80%	100%	区全体基本構想策定：60%、重点整備地区別計画策定：1地区につき10%増
	日暮里駅周辺地区交通バリアフリー進捗率	80.0%	90.5%	90.5%	90.5%	100%	バリアフリー進捗率（【道路】整備済延長/必要整備延長と【施設】バリアフリー対応済施設数/バリアフリー対応必要施設数の平均）
	コミュニティバスルートの拡大進捗率	10%	20%	20%	40%	100%	基礎調査：10%、詳細調査：20%、導入ルート決定：40%、導入：1ルートにつき20%増
現状と課題 （指標分析）	<p>平成17年8月につくばエクスプレスが開業し、20年3月には日暮里・舎人ライナーが開業するなど、これまでのJR線、京成線、地下鉄、都電荒川線と併せ、区内の鉄道交通の充実が図られた。さらに、平成22年度には、日暮里・成田空港間を36分で結ぶ、成田スカイアクセスが開業し、日暮里駅の交通結節点としての役割が飛躍的に高まっている。</p> <p>年々、鉄道駅構内のバリアフリー化は進んでいるが、駅周辺のバリアフリー化は十分でない状況にある。</p> <p>区内の鉄軌道の多くは南北に走っており、東西交通は都電荒川線のみで、南千住駅東側への交通手段が少ない状況である。このような中で、コミュニティバスさくらは利用者が増加傾向にあり、20年度には汐入地区にコミュニティバス汐入さくらを導入した。</p> <p>区内の交通体系は充実しているが、鉄道駅や主要施設までのアクセスが未だ不便な地域が存在している。</p>						
今後の方向性	<p>《今までの成果及び指標分析を踏まえて》</p> <p>新法に基づく区全体のバリアフリー基本構想を策定し、優先される各地区を重点整備地区と位置づけバリアフリー化を図る。</p> <p>区民の公共施設等の利用の利便性向上や自家用車等の利用抑制のため、自主運行によるコミュニティバス路線の拡大について検討する。</p>						

施策の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	交通網の整備を進めるとともに、バリアフリー化を図る必要がある。

施策分析シート（平成23年度）

No2

施策を構成する事務事業の分類						
事務事業名	事務事業 No	決算額（千円）		施策推進のための 分類		分類についての説明・意見等
		21年度	22年度	前年度 設定	今年度 設定	
バリアフリー整備促進事業	09-01-06	7,747	7,169	重点的に推進	重点的に推進	高齢者等の移動や施設利用の利便性を確保するための最優先の事業である。
日暮里駅総合改善事業	09-01-10	209,750	4,014	継続	継続	日暮里駅整備(株)の適切な運営に関する調整を行う。
コミュニティバスの利用促進	09-01-16	5,450	-	推進	推進	高齢者・障がい者等の日常生活の足として欠かせないものである。
つくばエクスプレスの利用促進	09-01-17	70	50	継続	継続	沿線地区の活性化のために利用促進を図る必要がある
合 計		223,017	11,233			